みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Images of the Han Chinese Reflected in the Oral Poetry of the Liang shan Yi

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小門, 典夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00004195

涼山彝族の口誦詩にみえる漢族のイメージ

小　門　典　夫*

Images of the Han-Chinese Reflected in the Oral Poetry of the Liang-shan Yi

Norio KOKADO

Various social phenomena are reflected in oral poetry, and so it is very useful for understanding the society in which it was created. When we are investigating how a matter is viewed by an ethnic group, the formulaic phrases that we find in their oral poetry are valuable owing to their very formulaic nature because the common, ordinary views of a society can be embodied in those phrases.

By using Yi source materials, this paper describes and surveys the formulaic phrases whose content can reflect how the Yi people living in the Liang-shan district, Si-chuan, China, viewed the Han-Chinese in the past. Then, based on the described images of the Han-Chinese, the author examines how the Yi people saw ethnic relations with the Han-Chinese.

The Yi are an ethnic minority mainly distributed over the provinces of Si-chuan, Yun-nan, Gui-zhou and the Guang-xi Zhuang Autonomous Region. There are about 1,500,000 Yi people in the Liang-shan district now. The language spoken by the Yi belongs to the Tibeto-Burman group.

Through research and examination, the author reached the following conclusions:

(1) It is very probable that the period when the main images of the Han-Chinese were formed to be reflected in Yi oral poetry ranges from the Qing dynasty to the Kuomintang period. This conclusion is based on the fact that there are phrases expressing opium, guns and the ornamental gems on caps worn by Qing dynasty officers; it is also sup-

* 京都大学，国立民族学博物館研究協力者

Key Words : Liang-shan Yi, Han-Chinese, oral poetry, formulaic phrase, image
キーワード：涼山彝族，漢族，口誦詩，固定化した表現，イメージ

ported by the fact that the phenomena reflected in the oral poetry agree with those reported in the ethnographies written by those who visited the Liang-shan district at that period.

(2) The Han-Chinese were recognized as an ethnic group distinct from the Liang-shan Yi themselves. Among the ethnic groups known to the Liang-shan Yi, the Han-Chinese occupied their main interest.

(3) Two images of the Han-Chinese are especially conspicuous:

i) One is that of the Han-Chinese as the people in power. We can infer this image from the formulaic expressions concerning Han-Chinese officers accompanied by large armies. The Han-Chinese officers are also associated with jails to put the Liang-shan Yi in. We can suppose that the Liang-shan Yi felt themselves oppressed under the power of the Han-Chinese officers supported by their overwhelming military force. The Yi tried to keep a friendly relationship with the Han-Chinese officers while they could get benefit from it. This makes it easy for us to understand why the Liang-shan Yi did not hesitate to attack the Han-Chinese once their power was weakened and the advantage of cooperation with them was lost.

ii) Another image is that of the Han-Chinese as suppliers of commodities. This image can be inferred from many formulaic expressions concerning merchandise sold by the Han-Chinese merchants. It includes articles such as salt, cotton cloth, liquor, candy, guns, pans, etc. It is likely that the Liang-shan Yi were attracted by the affluence that the Han-Chinese possessed. That affluence itself may have stimulated the Yi to plunder the Han-Chinese.

4) In many formulaic phrases, political and economic activities are associated with cities and streets where Han-Chinese lived. It is probable that the cities located around the Liang-shan Yi district worked as an important place of contact between the Han-Chinese and the Liang-shan Yi.

0. 目　的
1. 序　論
1.1. 涼山彝族について
1.2. 涼山彝族の奴隷制度の概略
1.3. 涼山地区における王朝による統治の概略
1.4. 資料の説明及びその利用方法
1.5. 彝語のローマ字表記一覧表
2. 本　論
2.1. 漢族区と彝族区の対立
2.2. 漢族区の役人と牢獄
2.3. 漢族への物質的依存関係
2.4. 漢族と彝族の間の習慣の差異
3. 考　察
3.1. イメージ形成の時期
3.2. 主要な他民族としての漢族
3.3. 物資供給者としての漢族
3.4. 権力としての漢族
3.5. 都市の役割
4. 結　語

0. 目　　的

口誦詩（oral poetry）には様々な事象が反映されているが，本稿の目的は，特に，中国四川省涼山地区の彝族が漢族に対してもっているイメージを反映する表現を記述報告し，それに基づいて，過去に彝族が漢族との民族関係をどのように認識していたかを方法論的試論として考察することにある。

1. 序　　論

1.1. 涼山彝族について

言語的にはチベット・ビルマ系の言語である彝語を使用し，また，民族独自の文字を有している彝族は中国の少数民族の一つであり，主に四川省，雲南省，貴州省，広西省の各地に居住している。中国の1990年度の人口統計では，彝族の総人口は657万人余りであり，中国の他の少数民族であるチワン族，満州族，回族，ミャオ族，ウィグル族についで，少数民族中第六番目の人口を擁している。

彝語はいくつかの方言に分類されているが，本稿では，彝語の北部方言を使用し，主に彝族の密集区である四川省涼山州彝族自治州に居住する自称ノス（nuosu）またはネス（niesu）という彝族の口誦詩について述べる。以下本稿で彝族や彝語という場合，この地区の彝族や彝語のことを指している。

『当代四川』叢書編集部 [1992] によれば，涼山彝族自治州に居住している民族として最も人口の多い民族は漢族であり，198.5万人で州総人口の53.6%を占めている。

次いで彝族の154万人が多く，州総人口の約42.29%を占めている。三番目はチベット族で，5万人余りであり，州総人口の約1.4%を占めている。自治州内に居住するその他の民族としては，モンゴル族，回族，ミャオ族，リス族，プイ族，タイ族，ナシ族，チワン族，ペー族その他がいる。

1.2.　涼山彝族の奴隷制度の概略

涼山彝族の社会に関しては，これまで，民族学その他の研究者によって実地調査や漢籍に見える記録に基づく記述・研究があるが，今まで報告された涼山彝族の伝統的な社会の特徴の中で最も注目されて来たことは，今世紀50年代，中華人民共和国共産党の指導のもとに奴隷解放を含む改革が行われるまで，奴隷の所有が行われていたということであると思われる[1]。

奴隷が所有されていた旧社会での成員は五つの階層に区分される。上から順に彝語でズモ（nzy mop），ノホ（nuo hop），チノ（qux nuo），ガチェ（mgap jie），カシ（ga xy）と呼ばれる。このうち，血統によりその地位を保証されているズモとノホが奴隷主階級の主体である。一方，奴隷階級の主体はカシとガチェである。最下層のカシは主に家内労働に従事するものであるが，自由に売買されるものであり，人身的自由を欠くものである。なお，ノホとチノはそれぞれ漢語で黒彝，白彝と呼ばれる［『涼山彝族奴隷社会』編写組　1982: 68–73］。

以下本稿では，金銭で自由に売買され，人身的自由を欠き，主に家内労働に従事するもので，彝語のカシという概念で指示されている存在を「奴隷」という言葉で呼んでいる。その来源の中には奴隷主に略奪されて来た漢族も含まれていた。そのため涼山の周縁部に居住している漢族などからは恐れられることとなっていた。階層的に中間に位置するチノとガチェをどう位置づけるかが奴隷という概念の理解にかかわってくるが，その問題は本稿の考察の範囲を越えるものであるので論じない。

1.3.　涼山地区における王朝による統治の概略

中国の王朝政権による統治制度としては，土司制度と呼ばれるものが涼山地区でも元朝，明朝，清朝を通じて実施されていた。土司制度とは土着の有力者に王朝側が世襲の官職を与えてそのままその土地を治めさせる統治制度である。従来，涼山地区の

1）涼山彝族の奴隷制が注目されて来たことは，「奴隷」という語を書名に含む単行本［胡　1985;『涼山彝族奴隷社会』編写組　1982; 周　1983］が数冊出版されている点からも知られる。

最高統治者は彝語でズモ（nzy mop）と呼ばれる階層のものであったので，ズモの階層であったものの中から土司が任命されることとなった。このような土司制度と並んで流官制度と呼ばれる王朝より任命されて赴任して来る漢族の役人による統治方法も統治区の状況に応じて行われていた。明の中期以後，涼山の一部の地区では少数の土司が除かれ，代わりに王朝側の役人によって直接統治が行われたことが知られている。また，明朝の時に，大量の駐屯兵が涼山地区に移って来て涼山地区における漢族側の統制力を高めた。本来最高統治者であったズモは明代中期以後，ノホ階層の台頭によって，次第に力を失って行ったが，王朝側の意を受けたズモによる統治の崩壊にともなって，漢族をも含む人身が奴隷主に略奪されて奴隷とされることが増加して行った[『涼山彝族奴隷社会』編写組　1982: 18–25, 32–39]。

清朝の時には最初のうちは清朝側の勢力が強く，その軍事力を背景として，彝族の抑圧が比較的うまく行われていたが，清朝の中期以降から民国期になると，中国の中央政権の弱体化とともに，彝族区での漢族側による統制力は総体的に弱まって行った。しかし，漢族側も時に大軍を動員することによって，一時的に涼山の中心部へと勢力をもりかえすこともあった[高　1978: 56–65]。

1.4.　資料の説明及びその利用方法

1.4.1.　本稿では，これまでの研究では資料としてほとんど使用されることのなかった口誦詩という新しい資料を用いることによって，彝族自身のもつ認識を考察している点に特徴がある。中国ではここ十数年来，古彝文を新たに整備しなおした音節文字を用いて口承文芸を記録するということが行われてきている。本稿ではこうして文字テキスト化され，公刊されている口誦詩の各ジャンルのものを総合的に使用した。また，古彝文を用いて記録されて今に伝わってきたものも含めている。

1.4.2.　資料として利用した口誦詩の各ジャンルのうち，格言詩[2]のようにかなり固定化した表現をもって一般の人々の日常生活の中において口頭で使用されているものには，とりわけ，そうした格言詩を生み出した民族の一般的な認識，感情が表現されていることは十分考えられることであり，このような性質をもっている口誦詩を資

2)　本稿で格言詩と呼んでいるものは彝語でルピ（lu byx）と呼ばれるものであり，対句的な二句からなるものが多いが，四句，六句ないしはそれ以上の長さのものもある。一句の音節数としては五音節や七音節のものが比較的多いが，さらに多くの音節からなるものもある。このような音律を備えるルピはほぼそのままで詩の中に取り込まれて詩の一部として使用される。ルピは内容的には格言やことわざとしての性質をもつが，形式的には詩の特徴を備えているがゆえに本稿では暫定的に格言詩と訳しておく。

料として用いて彝族という民族自身のもつ認識を考察することは有意義であると思われる。格言詩以外の詩のジャンルとしては歌謡（yiet hxop）や彝語でクンジュ（kep nrep）と呼ばれる即興で朗誦される口誦詩などがあるが，これらの口誦詩にも固定化した表現を見い出すことができ，やはり民族の一般的な認識を考察する資料としての価値をもつものと思われる。

1.4.3.本稿では，口誦詩に表現されていることを考察する際に，今世紀前半，すなわち中華人民共和国によって奴隷の解放が実施される以前の時期に自ら涼山に至り観察を行った学者の記録を参照しているが，特に高 [1978] を多く参照している。本研究で利用した高 [1978] は台湾で出版されたものであるが，これは日本語に抄訳されている曽 [1982] と同一のものである。その訳書の解説によれば，原書は『大涼山夷区考察記』といい1945年に初版が昆明で出されたものであり，著者の名は曽昭掄といい，1941年夏涼山で実地調査を行っている。

1.4.4.　口誦詩の引用に当たっては，現在彝族の人々に彝文字の標音手段として公式に使用されているローマ字表記に直して引用してある。表記法については次項 [1.5.] を参照のこと。各単語の下には逐語訳を示し，さらに全文訳をつけた。逐語訳において「(助)」としたのは助詞または助動詞であることを示す。個別の語については，例えば「(否定)」のようにより具体的に意味を表記しているものもある。「(量)」と記してあるのは量詞である。なお，土語的な差異などに起因するものを含むと思われるが，原文の表記が彝語の標準音と異なる場合があっても，そのままローマ字表記に直してある。

1.4.5.　便宜上，口誦詩の出典は以下に示した略号で示してある。NL1, NL2 は格言詩であるが，この2冊の著作には索引がついておりページ数は容易に検索できるのでページ数は省略してある。AZ, NH, NS, SY, VH は歌謡である。K1, K2, K3 はクンジュである。HM は彝文献として伝わって来ているものであり，清朝光緒年間の木刻版が存するものである。それゆえ，HM に示されている認識には清朝以前の彝族のものが含まれている。NW も文献として伝わるものであり，内容は創世神話を主としている。格言詩にも古彝文献に記録されて伝わるものがある。以下に略号を示した著作以外からの引用は文献表の著者名と出版年度によってその出典を示してある。

AZ	[涼山州編訳局　1983]	NL1	[涼山州編訳局　1990b]
HM	[羅　1985]	NL2	[涼山州編訳局　1993]
K1	[阿魯・盧　1987]	NS	[馬　1988]
K2	[嘎哈・他　1988]	NW	[馮　1985]
K3	[嘎哈・吉爾　1990]	SY	[涼山州編訳局　1991]
NH	[涼山州編訳局　1990a]	VH	[越西県語委王清順等　1987]

1.5. 彝語のローマ字表記一覧表

（[　]内は音声の簡略表記）

声母

b[p]	p[ph]	bb[b]	nb[mb]	hm[m̥]	m[m]	f[f]	v[v]
d[t]	t[th]	dd[d]	nd[nd]	hn[n̥]	n[n]	hl[ɬ]	l[l]
g[k]	k[kh]	gg[g]	mg[ŋg]	hx[h]	ng[ŋ]	h[x]	w[ɣ]
z[ts]	c[tsh]	zz[dz]	nz[ndz]			s[s]	ss[z]
zh[tʂ]	ch[tʂh]	rr[dʐ]	nr[ndʐ]			sh[ʂ]	r[ʐ]
j[tɕ]	q[tɕh]	jj[dʑ]	nj[ndʑ]		ny[ȵ]	x[ɕ]	y[ʑ]

韻母　アンダーラインは張り母音であることを示すためにつけられているが，[u̲] と [ɿ̲] は調音の際に喉頭部が特に緊張する。

i[i] ie[e̲] a[a̲] uo[ɔ̲] o[o] e[ɯ] u[u] ur[u̲] y[ɿ] yr[ɿ̲]

声調　彝語には四つの声調があるが，中平調には何もつけないほかは，音節末に記号をつけることにより区別される。（　）内の数字は声の高さを 1 から 5 までに分け声調の相対的高さを示したもの。

	高平調（55）	中昇調（34）	低降調（21）	中平調（33）
記号	t	x	p	無標

以上の記号の他，w という記号も用いられ，これは，前と同じ音節が繰り返される

ことを表す。

2. 本　　論

口誦詩の中に比較的頻繁に見える漢族，漢族区のイメージは大きく四つのテーマの下にまとめられる。[2.1.] は地理的側面，[2.2.] は政治的側面，[2.3.] は経済的側面，[2.4.] は風習的側面をテーマとしている。以下，それら四つを順に記述，考察して行く。

なお，以下引用する口誦詩の中では，彝族自身の自称として，ノス（nuosu）とニ（nip）が使われており，漢族のことはホ（huo），ホホ（huo hop），ヘンガ（hxie mgat），ショ（shuo）のいずれかの呼称で表現されている。

2.1. 漢族区と彝族区の対立

涼山の彝族の口誦詩に見える他民族はほとんどすべてが漢族である。他の民族としてはチベット族が見える[3]。

格言詩では，以下の例によって知られるように，彝族の居住区と漢族の居住区が対にされるか，列挙される。このことは彝族の生活空間認識の中では空間が彝族区と漢族区とに大きく二分されて存在しているということを反映するものとして解釈できる。

it	qop nip mu jjo	自分の友が彝族区にいれば
自分の	友　彝族 土地 有する	
it	nyuo nip mu hxep	自分の目は彝族区の方を見る
自分の	目　彝族 土地 見る	
it	qop huo mu jjo	自分の友が漢族区にいれば
自分の	友　漢族 土地 有する	
it	nyuo huo mu hxep	自分の目は漢族区の方を見る
自分の	目　漢族 土地 見る	

[NL1]

3）漢族とチベット族以外としては，プ（pup）及びパ（ba）という古代に存在したといわれる民族のことが格言詩に数例見えるだけである。プという民族は彝族より先に涼山地区に到来していたということが格言詩から知られるが，それ以上のことは口誦詩から知ることはできない。

hnep bo cox na nip mu huo mu	耳で聴けるのは彝族区漢族区の
耳 人 聴く 彝族 土地 漢族 土地	到る所の事
nyuo zzyp co hxex bbox go lox go	目で見えるのは山や谷のあると
目 人 見る 山 （助） 谷 （助）	ころまで

[NL2]

nip mu huo mu ggex sse cyp ma ndit	彝族区であろうと漢族区であろ
彝族 土地 漢族 土地 太陽 一 （量） 懸かる	うとどこでも同じ一つの太陽が
	出ているように
su jjyt su yy hxie mop cyp ma nyi	
つまらない人物 りっぱな人物 心 一 （量） 内在する	
	小人物でも大人物でも同じ一つの心をもっている

[NL2]

言語の使用もやはり次のように彝族と漢族の言語の使用が対比して表現されている。

nip qo nip hxop mu	彝族と一緒にいれば彝語を話し
彝族 伴う 彝語 行う	
nip hxop ssyr lyrw	まったくよどみなく
彝語 よどみなく話す様	
huo qo huo hxop mu	漢族と一緒にいれば漢語を話し
漢族 伴う 漢語 行う	
huo hxop lyt chaw	流暢である
漢語 流暢な様	

[NL2]

彝族区以外の地区として，チベット族区が漢族区と並んで創世神話の中に表現されている。

史詩 [NW: 85–86] では，彝族，チベット族，漢族は大洪水で生き残った彝族の始祖ジュム・ブブの三人の子供の後裔だということになっていて，ジュム・ブブの三人の子供が言葉を話し出してみると，三人の話す言葉はそれぞれ異なり，長男の話した言

葉はチベット語，次男の話した言葉は彝語，末の子の話した言葉は漢語であったのでお互いの言葉が通じなかったという。史詩には次のように述べられている。

vux vu　sse suo nyi （人名）　子　三　（助）	ブブの三人の息子たちは
suo bbup　suo ddix ggo 三　（量）　三　所　分家する	三つの場所へと別れて行った
vux vu lat yip li　hxie mgat （人名）　（助）　漢族	ブブライは漢族であるが
syp　la　mo　ddu　jjo 解る（助）　見える（助）　有する	広い見識を備えている
lur bbop mu　sat　zu 石の山　土地 標識 立てる	石の山を土地のしるしとして
jjop jjip　ka　nge　cy　wep lox 平野 存在する（助）　～である 三人称 得る（助）	すべての平野を手に入れてしまい
shuo nuo shur nzix zzur 大海　へり 住む	大海のほとりに住んでいる
vux vu gi zyp li　nuo su （人名）　（助）　彝族	ブブキツは彝族であるが
ry nzup　mu　sat　zu 結んだ草 土地 標識 立てる	草を結んで土地のしるしとして
ggu ci ggu hxo jo 高冷地　廻る	高冷地を廻っている
hxix li　ap bbu　ap ly　jjix 外　（助）（人名）（人名）　～となる	外ではアブ・アルとなり
kux li　ggu ho　qot niep jjip 中　（助）（人名）（人名）　～となる	内ではグホ・チョニとなった
vux vu sy sha li　op zzup （人名）　（助）　チベット族	ブブスシャはチベット族であるが
syr ki　mu　sat　zu 木の標識 土地 標識 立てる	木の標識を土地のしるしとして

hxo mu suo zot zzur	高地に住んでいる
高地　三（量）住む	
kux li op zzup ddix	内ではオズ（チベット族）と言い
中（助）チベット族（助）	
hxix li la ma ddix	外ではラマと言った
外（助）ラマ（助）	

[NW:86]

この一節に，平野部はすべて漢族により占められてしまったと述べられているのは，山間部に居住している彝族からすれば，自分たちの居住区の周囲は漢族区であるという認識を示していることになる。そして，漢族の始祖は「広い見識を備えている」と言っているのは，彝族が漢族の先進性を認めていることを反映しているものとして理解される。

彝族と他民族の関係を考えて行くうえでは，チベット系の民族との関わりを考察しなければならないことを創世神話は示している。しかしながら，例えば，彝族の格言詩においては，そもそもチベット族のことを述べているものの量が，漢族のものと比べた場合圧倒的に少ないのみならず，漢族と彝族のことを対比的に述べた表現は既にその一部を示したように一般的である。さらに，チベット族と彝族のことだけを対比した表現は今のところ一つも見られず，チベット族のことを表現する時には，彝族と漢族のことを並べたうえにチベット族のことを加えて三つの民族を対比させるという表現しか見られないことからすれば，彝族の意識の中ではあくまで漢族という存在が主要なものであると解釈される。また，[1.1.] で述べておいたように，現在の涼山地区における民族構成は，漢族と彝族が人口のほとんどを占め，漢族と彝族に比べればはるかに少ないが，とにかくその次にチベット族が来ている。このことは，口誦詩で民族に関する事象が述べられる量の比率と現在の実際の民族構成の人口の比率との間の一致を示していることになる。そして，創世神話にもこの三種類の民族のみが取り上げられているということは，結局，この創世神話の伝承は他の口誦詩と同列に取りあつかっても差し支えない時期に創り出されたものである可能性があろう。

彝族は高地に生活しており，温度の比較的高い低地には彝族は身体的に適応しがたく，平野部は基本的に彝族の居住地でないことは，高 [1978: 42–43] に指摘があり，「涼山地区の彝族は例外なく暑さに弱い。いったん湿気があり暑いところに出ると，たちまち病気になりがちである」，「気候が非常に温和で，海抜一千八百二十メートルの西

昌では耐えられないということになる」と述べられている。このことは次のような表現に反映されている。

lep gge op rro ne	西昌では
(地名)　(助)	
pup bbu mu ca hlit	背中には強い日差しが照りつけ
背中　日差しが照りつける	
vut jjip yy shy hlyt	腹部には水泡ができる
腹部　水泡ができる	

[NW:92]

le she ggu ke bit	多くのジャコウを取り出し
ジャコウ 九 (量) 出す	
jjot bbip ggu ma zip	多くのカバンに入れておくと
カバン 九 (量) 入れる	
mu la ggu pyr ni	多くの土地まで匂う
土地 (助) 九 (量) 匂う	
huo mu luo ggut jox	そうすれば漢族区でも
漢族区 (文学語) (助)	
hxop na qiex shy ggot zzi bbo	暑気中りになることはない
暑気中り　過ぎ去る 行く	

[K2:216]

以上の例から，彝族の基本的な空間認識の中には，自分たちの住んでいる比較的気温の低い高地と漢族の住んでいる暑い低地という図式も存在することが推測される。

漢族区は彝族区の周辺ばかりでなく，彝族区の中にもくい込んで存在している。城郭都市がそうであり，そこには，役人や軍隊などを含む漢族が駐在している。次のものは漢族と城郭都市や街を組み合わせている。城郭都市や街は漢族区のイメージの中で中心的な位置を示している。

nuo ddop nuo hxip nuo mu lix ko nyi	彝族は彝語を話し彝族区の辺地
彝族 言葉 彝族 言う 彝族 土地 辺地 座る	におり

huo ddop huo hxip huo mu lur kur nyi　漢族は漢語を話し漢族区の城郭
漢族 言葉 漢族 言う 漢族 土地 城郭都市 座る　都市にいる

[NL2]

huo sse jo rex li　漢族が集中するのは
漢族 男子 集中する（助）
huo mu jie shat nge　漢族区の街である
漢族 土地 街 ～である

[K2:99]

gi la lop zzy li　漢族の役人が集まるのは
漢族の役人（文学語） 集まる（助）
huo mu lur kur zzy　漢族区の城郭都市に集まる
漢族 土地 城郭都市 集まる

[K2:185]

huo mu lur kur jox　漢族区の城郭都市には
漢族区 城郭都市（助）
gix la hlop sse nyi　漢族の役人がいる
漢族の役人（文学語） 座る
cy nyi ddex go li　漢族の役人のいる所には
これ 座る 所 （助）（助）
mot yop ssyrx lyrw　たくさんの兵士がいる
兵隊 勢揃いした様

[K2:35]

街にやって来る彝族もいる。街あるいは城郭都市は漢族区と彝族区の接点としての役割をもっているのである。それで，次のような表現がある。

nip zzy huo zzy li　漢族と彝族が集まるのは
彝族 集まる 漢族 集まる（助）

huo　mu　jie shat　nge	漢族区の街である
漢族　土地　街　　～である	

[K1:38]

城郭都市などでは彝族と漢族の間に交易などの上で接触があるので，それぞれの民族に相手の言語が話せる必要があるが，そのことも反映されている。次に示した例のうち二番目のものに見える雷波というのも西昌と同じように涼山の彝族区の周縁に位置する漢族の住む城郭都市である。高 [1978: 20] には，「雷波県城は漢人に掌握されているが，その周囲は従来彝族の住民が多かった。民国八年には，さらにほとんどすべてが彝族の手に落ち，この県城だけが残され，時には脅かされることもある一本の道だけにより，東の方の蠻夷司に通じていた」[4]と述べられており，彝族区との接点となる漢族区であった。

lat bbu op rro　ne	西昌では
(地名)　　(助)	
nip　sse　huo hxop　mu	彝族が漢語を話し
彝族　男子　漢語　　行う	
huo　sse　nip hxop　mu	漢族が彝語を話す
漢族　男子　彝語　　行う	

[VH:137]

mop bbo　lur kur　jjo　su　ne	雷波の城郭都市に住んでいる者は
(地名)　城郭都市　居る (助)　(助)	
huo hxop　lyt chaw　xi　mu	漢語をすらすら話す
漢語　よどみのない様 (助)　(助)	

[K3:232]

4)　1943年に涼山で実地調査を行った林 [1947: 120] は雷波の街について次のように述べている。「雷波も彝族と漢族が交易を行う重要な場所であり，布，塩，針といった多くの商品が専ら彝族の需要に供されている。平日彝族も頻繁に街を往来し，県政府の門の傍らには彝族が夜を明かすのに便利なように宿泊設備が設けられている。彝族の漢族化した者もとても多く，服装を改めてしまうと，誰が彝族で誰が漢族なのか見分けられなくなってしまう」。

2.2. 漢族区の役人と牢獄

口誦詩に表現される漢族はほとんど漢族の役人である。漢族の役人はよく彝族の土司と対比して表現される。

huo mu luo ggut　jox　　漢族区では
漢族区（文学語）（助）
gix sse　nge get ngop　hmi　ti　xi　mu　役人が我々の名前を広め
漢族の役人 すべて 我々の 名前 伝える（助）（助）
bbyp vur lie nuo　jox　　ブブレノでは
（地名）　（助）
nzy　sse　nge get ngop　hmi　ti　xi　mu　土司が我々の名前を広める
土司 男子 すべて 我々の 名前 伝える（助）（助）
[K3:221]

土司は中国の王朝から印章（lot sa）を与えられているので，口誦詩においては，土司はしばしば印章と組み合わせて表現される。これに対して，漢族の役人は，清朝の官吏が用いた制帽の上端につけられた等級を示す珠によって表現されることがある。この珠は漢語で「頂子」と呼ばれていて，口誦詩ではその借用語 dit nzy が使われる。

nzy　sse　ax yy　sy　su　ap　guo　nyi　大土司が死ぬのは耐えられるが
土司 男子 大きな 死ぬ（助）（否定） ひどい（助）
lot sa　suo　kut　ggop ga ga　ne　guo　印章が何年もむなしく残るのは
印章　三　年　空しい様　（助） ひどい　耐えられない
huo　sse　ax yy　sy　su　ap　guo　nyi　漢族の大官が死ぬのは耐えられ
漢族 男子 大きな 死ぬ（助）（否定） ひどい（助） るが
dit nzy　suo　kut　ggop ga ga　su　guo　制帽の珠が何年も空しく残るの
頂子　三　年　空しい　（助） ひどい　は耐えられない
[NS:123]

huo qo di nzyp ndit ma ddi　漢族と一緒に制帽の珠を帯び
漢族 伴う 頂子 帯びる（量）（助）
nzy qo lot sa ssix ma ddi (a hxop) a　土司と一緒に印章を使うよ
土司 伴う 印章 使う（量）（助）（囃子詞）（助）

[VH:144]

漢族の役人のことは彝族区の頭目と一緒に表現されることもある。

gix sse vut rre zze　漢族の役人が賄賂をとると
漢族の役人 賄賂をとる
jie gga ggu ji zhot　その管轄下はすべて汚され
街路 九（量）汚す
ndep ggup vut rre zze　彝族の頭目が賄賂をとると
彝族の頭目 賄賂をとる
nzi bbo ggu pup zhot　多くの仲裁事が汚される
話し合い 九（量）汚す

[NL2]

漢族の役人が軍隊と組み合わせて表現されるのも固定的なものである。

gix sse gi yip lyt　漢族の役人は役人どうし声をか
漢族の役人 漢族の役人 一言告げる　けあい
gi nyi bbo jjy jo　漢族の役人のいるところには
漢族の役人 座る 下 （助）
qyx gur vat hni rre　輿がずらりと並び
輿 崖 並ぶ
mot yop jjip yop mga　兵士が頻繁に行き来し
兵士 蜂 通る
mot sa bbup hlup vo　軍旗が風にはためき
軍旗 蝶 飛ぶ

max zy ssup hxo pur　　多くの銃弾がある
銃弾　杉林　翻る

[K2:225]

huo mu gi gga ne　　漢族区の街では
漢族 土地 街路 (助)
gix sse di mu yur　　漢族の役人が一人だけで
漢族の役人 単独 (助) 生まれる
mot yop dur mu shyp　　数多くの兵士を率いている
兵士　千 (助) 率いる

[K2:209]

huo mu gix sse li map nge　　漢族区の役人でもないのに
漢族 土地 漢族の役人 (助) (否定) ～である
mot yop dur mu shyp yie nge　　数多くの兵士を率いている
兵士　千 (助) 率いる (量) ～である

[K3:100]

huo my gix sse qo　　漢族区の漢族の役人と一緒に
漢族 土地 漢族の役人 伴う
mot yop dur mu nyi shyp nzox　　数多くの兵士を率いたこともある
兵士　千 (助) (助) 率いる (経験)

[K3:227]

以上のような表現から考えられることは，漢族区の役人とは，圧倒的な軍事力をその背後に有しているが故に権威をもつものとして認識されていたであろうということである。このような漢族の役人と友好的な関係を維持することは，涼山地区の彝族どうしの間でも抗争の絶えなかったことを考えれば，強力な後ろ盾を手に入れることになり，有利に働く。そのことの反映であろうと思われるが，次に示すように漢族の役人に物を贈るという固定的な表現が見られる。贈与行為は漢族の役人から何らかの利益を得ようという目的をもつものとして理解される。

lat njy suo bbut ax di qyt sip la	虎の皮を三枚剝いできて
虎 皮 三 （量） ただ 剝ぐ（助） 来る	
cyp bbut ngop qyt nuo yy vut jjip sha	一枚を河川流域の漢族区に送り
一 （量） 我々 剝ぐ 河川流域 送る	
gix la hlop sse ly ci hxit yuo ggat	漢族の役人四十八人が着た
漢族の役人（文学語） 四 十 八 （量） 着る	
gix la hlop sse ly ci hxit yuo su	漢族の役人四十八人は
漢族の役人（文学語） 四 十 八 （量） （助）	
ngop mox uo mu tit nzop yie	我々の前で深く礼をした
我々の 前 叩頭の礼をする（経験） （量）	

[K1:198]

tep hlep ggu ma yu	ウサギを九羽つかまえて
ウサギ 九 （量） 取る	
tep njy ggu bbut qyt	ウサギの皮を九枚剝ぎ
ウサギ 皮 九 （量） 剝ぐ	
tep nyie ggu ji cyp	ウサギの毛を九本切り
ウサギ 毛 九 （量） 切る	
sip la gix sse bbyx	漢族の役人の所に持って行って
持つ 来る 漢族の役人 与える	贈った
gix sse ngop jox hxep da lox	そしたら漢族の役人は我々の方
漢族の役人 我々 （助） 見る（助） （助）	を見て
uox mur suo lot tit	叩頭の礼を三度し
頭の先 三 （量） 打ち付ける	
lot sa ggu ma wep	我々は九つの印章を手に入れた
印章 九 （量） 得る	

[K2:216]

また，口誦詩では，漢族は彝族をとらえて牢獄にいれるものとしても表現されている。鳥居 [1980: 232] は涼山地区内の越西という城郭都市での記録として，「衙門には人質として羅猓を六十余人，大人と子供を合わせて入監してあった。もし代わりのものが来れば在監のものは帰すということになっているとのことである」と記している。

これは1903年の記録であり，玀猓は彝族のことである。また，高 [1978: 59] によれば，清代に雷馬峨屏の四県の牢に人質となっていた彝族は，計200人以上であり，彝族はこのため軍事的行動をひかえていたという。このような当時の記録から知られる通りに，清朝側は牢獄に人質をとることによって彝族の行動を束縛しようという方策をとっていた。彝族の側から見れば，それは漢族の非情な仕打ちとして認識されることになるであろう。次のような表現がそのことを示している。

guox ne　huo hop guo	ひどいのは漢族がひどい
酷な（助）漢族　酷な	
huo hop jie yi guo	漢族の牢屋がひどい
漢族　牢屋 酷な	
nuo sse jjo map sho	黒彝は長く生きられない
黒彝 男子 生きる（否定） 長い	

[HM:47–48]

nip vu　huo vu　li	彝族と漢族の関係が逼迫すると
彝族 きびしい 漢族 きびしい（助）	
nzy sse jie yi vur	土司が牢獄に入れられる
土司 男子 牢獄 入る	
nip guo　huo guo　li	彝族と漢族が非情であると
彝族 ひどい 漢族 ひどい（助）	
bby nge　shut tit ndit	女は足かせをつけられ
女　～である 足かせ 帯びる	
yur nge　ho shyx byp	男は鉄の鎖を負うことになる
男　～である 鉄の鎖 負う	

[HM:8]

次の歌詞は父親が西昌の牢獄で獄死した幼児を母親があやす内容のものである。

ax mo ssep nyop ax ta op rrop ggo　ap lap	坊やのお父さんは西昌で命尽き
母　幼子　父　（地名） 尽きる（助）	たよ

mup shy wa nyix ne　　将来
将来　　(助)
lep ggep op rro jox　　西昌で
(地名)　　(助)
sse dda　　pat quo shep　　dox　　shep mo　　luop
一人前の若者 父　かたきをうつ(可能)　うつ(意志)　(助)
一人前の男になったお前が父親のかたきをとってくれるよ
[NH:99]

漢族によって彝族が抑圧されていたという認識は涼山の彝族の間に伝わるカモ・アニョ(ga mop at nyop)という伝説的な美女のことを歌う歌謡によってもその一端を伺うことができる。カモ・アニョの伝説は明代のこととされているが，カモ・アニョの出生地及びその年代の真実のほどは明らかではない。カモ・アニョは類希なる美人であったが故に漢族の大官に目をつけられ，大官の遣わした大勢の兵士に護送されて無理やり漢族区の都市に連れて行かれることになったが，彝族の男たちは誰もそれを阻むことができなかった。街についたカモ・アニョは妾にされそうになったが，カモ・アニョは断固としてそのことを拒否し牢獄の中で自ら命をたったというのである。このカモ・アニョのことを歌った歌謡には様々なバリエーションがあるので細部の違いはあるがだいたいにおいて今述べたような筋である。この歌の内容も彝族が漢族の役人に対して抱いているイメージを理解する一助となる。

カモ・アニョが漢族のところに連れて行かれる様が次のように表現されている。

gix sse ggur yuo　qo　da　　九人の役人に伴われ
役人　九　(量)　伴う(助)
(dde lex lep)　sip　bbo　vex　　連れて行かれたよ
(囃子詞)　持つ　行く(助)
mot yuop ggu hxa qo　da　　九百人の兵士に伴われ
兵士　九　百　伴う(助)
(dde lex lep)　sip　bbo　vex　　連れて行かれたよ
(囃子詞)　持つ　行く(助)
sip　su　sip　bbo　vex　　連れて行ってしまうよ
持つ(助)　持つ　行く(助)

(dde lex lep)　sip　la　sip　la	連れて来られて
(囃子詞)　持つ 来る 持つ 来る	
mop bbo gie gga xi　go　ne	雷波の街につくと
(地名)　街路　至る (助) (助)	
nry jy　(dde lex lep)　lur kur　rrur	酒は城内にあるが
酒　(囃子詞)　城郭都市 存在する	
nry sot　(dde lex lep)　lur hxi pie	酒の香りは城外までただよって
酒 気　(囃子詞)　城外　出現する	くる
mot yuop　(dde lex lep)　lur hxi jjo	兵士たちが城外におり
兵士　(囃子詞)　城外　存在する	
mot sat　(dde lex lep)　bbup hlup vo	軍旗がひらひらと舞っている
軍旗　(囃子詞)　蝶　飛ぶ	
sip　la　jie yi qu　go　zip	連れて来られ牢獄の中に入れら
持つ 来る 牢獄 白い (助) 入れる	れた
jie yi　(dde lex lep)　vur　li　vex	牢獄の中に入って行ったよ
牢獄　(囃子詞)　入る 行く (助)	

[VH:92–93]

彝族居住区と漢族の居住区が接する地域においては抗争しあう関係にあるという認識も次のものに表現されている。これは彝族と漢族との間の利害関係に基づく抗争が中国の王朝期（～1912）より国民党政府（1912年～1949年）の時期を通じて断続的に続いていた歴史的事実に対する彝族自身の認識を示している。漢族側はその統治力を強化するために時に彝族区に軍を進めていた。彝族側も漢族区に出没して奴隷や財を獲得していた。

nip　zzur　huo　zyp　ggit	彝族が漢族区に接して住めば滅
彝族 住む 漢族 接する 絶滅する	び
huo　zzur　nip　zyp　sha	漢族が彝族区に接して住めば悲
漢族 住む 彝族 接する 悲惨だ	惨である

[NL2]

nip　zzur　lur xy　　zyp　　彝族が城郭都市の近くに住めば
彝族 住む 城郭都市の側 寄る
cyp nyip ap　　ggit　　cyp nyip ggit　　いつか必ず滅びる
一　日　（否定）絶滅する 一　日　絶滅する
vot ba　　hox lur　it　　肥えた豚が囲いの中に居れば
肥えた豚 囲いの中 中に居る
cyp nyip ap　　sit　cyp nyip sit　　いつか必ずつぶされる
一　日　（否定）殺す 一　日　殺す

[NL2]

漢族の役人が様々な画策をめぐらしてうまく対処しようとするが，彝族の側の軍事的行動はやまないということも表現されている。次の例の中に見える at hxop su というのは直訳すれば，「安寧河流域部の人」ということである。狡猾な手段と言われているものの中には，彝族から人質をとって牢に入れて置くということも含まれているであろう。

at hxop　su　qot hxo　　平野部の漢族の役人たちは狡猾
（地名）人 狡猾だ　　に彝族に対処する
ap　　qot　　cuop luo　qot　　必ずちょっとは狡猾である
（否定）狡猾だ 少し　　狡猾だ
li li　　ma　qi　pur　　山間部の彝族たちは竹の葉が翻
（地名）竹　葉 翻る　　るようにしばしば反抗を繰り返す
ap　　pur　cuop luo　pur　　必ずちょっとは反抗する
（否定）翻る 少し　　翻る

[NL1]

高 [1978: 38] によれば，漢族区の近くに住んでいる彝族たちは，民族内部の抗争で有利な立場にたつため，競って漢族に接近していたので，漢族の役人の側も漁夫の利をうまく利用して彝族を治めていたという。鳥居 [1980: 233–234] によれば，涼山の越西地区の漢族の役人が周囲の彝族を懐柔するために，毎年五千数百テールの銀貨を渡しているので，彝族も幾分か温和な態度を取るようになったという。これらも，上

の例に見える狡猾さということに含まれるかもしれない。

2.3.　漢族への物質的依存関係

口誦詩に最もよく見える漢族の住む街は現在涼山彝族自治州の州都である西昌である。西昌は彝語ではラブオジョ（lat bbu op rro）ないしは単にオジョ（op rro）というが古い時期においてはルグオジョ（lep gge op rro）と呼ばれていた。ルグ（lep gge）というのは過去において西昌一帯を支配していた一族の名に由来するという。西昌は安寧河（at hxop nyo yy）という川の流域にあるため，この河川流域の名は漢族の居住地を意味することになる。次の歌詞に見えるダズボ（ndap ssy bbo）という山は漢語で瀘山と呼ばれるもので西昌市郊外にある。西昌は涼山の政治・商工業の中心地であるから，次のように，荷を運ぶラバの姿が似つかわしいとか，荷を運ぶ馬につけている鈴の音が響くというのである。

gux lu shup qu　zzyx su　li	ラバに乗る者は
ラバ　薄い藍色の　乗る（助）（助）	
ndap ssy bbo vut mga ne　nze	瀘山のふもとを通るのが似つか
（山名）　下　通る（助）　似つかわしい	わしい

[K1:138]

at hxop jjop go　mu ra　mox sy zzy	安寧河流域の平野を駄馬が鈴を
（地名）　平野（助）　馬につける鈴　鳴る（助）	響かせながら行き来している間は
syr pyt ge hxo nyi yo ce ap　ggie	高地の彝族区で羊に与える塩が
高地の彝族区　羊　塩（否定）　絶える	絶えることはない

[NL1]

荷を担ぐための天秤棒も漢族の土地と結び付いて表現される。これも商工業地区として漢族区のイメージを示すものである。

huo mu biep dat li	漢族区の天秤棒は
漢族　土地　天秤棒　（助）	

ap　qy　ap　njie　ne　折れない限り
（否定）折れる（否定）砕ける（助）
jie shat suox jo　w　街を何度も行き来しなくてはならない
街　三　（量）廻る

[K2:121]

huo sse biep dat (yip) ti su wo　天秤棒を担ぐ漢族たちよ
漢族 男子 天秤棒 （囃子詞） 担ぐ（助）（量）
vi lyt vi xie gga hxa ndox da　荷を道端におろして
荷を解く 路の上手 置く（助）
mup mop lat ge (yip) hna la luop　ラクの話を聴きに来なさい
文学的な言葉（人名）（囃子詞）聴く 来る（助）
biep dat ddew (yip) ti yiet ddi　天秤棒はいつでも担げるでしょう
天秤棒 いつも （囃子詞） 担ぐ（量）（助）

[VH:188]

漢族の居住区である西昌では商工業が発達しており，生活費がかさむ場所であり，それゆえ彝族区で生活する方がよいという認識が次の格言詩には示されている。

lep ggep op rrop suo kut jjox ne　西昌に三年住めば
（地名）　三　年　生活する（助）
hlat xy zza ba zze　最後はズボンまで食べ物と交換して食べなくては暮らして行けないようになる
ズボン 食べ物 交換する 食べる
mit yip rruo nuo suo kut jjox ne　彝族の居住区である冕寧に三年住めば
（地名）　三　年　生活する（助）
muo kuo lix shy zzy　良馬も手に入ってゆったりと馬に乗ってゆうゆうと生活できるようになる
駿馬　くねくね動かす 乗る

[NL2]

彝族と漢族の間の交易を行うものの大多数は漢族の商人であり，それゆえ，彝族が

直接接する漢族としては役人を除けば商人が多かったであろうと考えられる。それで，漢族については次のような表現もある。

nuo su zhat da mup nyop hxip	彝族はよく考慮して事件を解決する
彝族　比較検討する（助）事件　言う	
hxie mgat sot da vy lot mu	漢族は計算をして商売を行う
漢族　計算する（助）商売を行う	

[NL2]

口誦詩の中には銀貨の流通のことに触れているものもある。胡 [1985: 86] によれば，貨幣が彝族区に大量に入り出したのは今世紀の 3，40年代以来のことであり，これは大量のアヘンが涼山で生産されて，漢族に売られた結果引き起こされたことだという。

bop di xyx ly puo	腰掛けには四本も脚があるのに
腰掛け 脚 四（量）	
ga ggux ga lex rrur	炉の周りにしかいられない
炉の周り　存在する	
bip dit xy ap ndit	銀貨には脚がついていないのに
銀貨　脚（否定）ついている	
nip mu huo mu jix	彝族区にも漢族区にも及んでいる
彝族 土地 漢族 土地 及ぶ	

[NL1]

口誦詩には，彝族が漢族との交易関係を必要とするという認識が示されている。口誦詩においては，漢族に供給を仰いでいる物品として塩が最も頻繁に表現される。また絹や綿布などの布地のこともよく表現される。

huo mu biep but ddur	漢族区で無地綿布が作られれば
漢族 土地 無地綿布 出る	
ax qy ke po nbox	娘の運はよい
娘　運　よい	

huo mu ce jie jju	漢族区で塩を運ぶ列が続けば
漢族 土地 塩 荷 絶えず続く	
nyi yo ke po nbox	羊の運はよい
羊 運 よい	

[NL2]

huo my luo ggot jox	漢族区では
漢族区（文学語）（助）	
ce mgot ce ndo njuo	塩を捜し求めて飲むため歩き回っている
塩 捜し求める 塩 飲む 歩き回る	

[K3:242]

塩は人，家畜ともに必需のものであるが，涼山の彝族区ではなかなか得がたいものである。次の格言詩は塩の貴重さに対する彝族の認識を表現している。

nip mu ce ap jjo	彝族区に塩がなければ
彝族 土地 塩（否定） 有する	
lur mgur ce mu da	石を拾ってでも塩のかわりにする
石 拾う 塩 ～にする（助）	

[NL2]

bbut li zza mu zze	草は飯の代わりに食べ
草 （助） 飯 ～にする 食べる	
zzax li ce mu yot	飯は塩のように大事になめる
飯 （助） 塩 ～にする なめる	
cex li shy mu bbop	塩は金のように大事にしまっておく
塩 （助） 金 ～にする 所有する	

[NL1]

塩に関して，高 [1978: 40] には次のように述べられている。

食塩は涼山においては，最も希少価値のあるものであり，賓客をもてなした場合なども，

往々にして塩の援助を求める。たまたま漢人の所で交換して塩を少し手に入れてくると，大部分は食べるに忍びなく，しまい込み，何日かごとに飼っている羊に与える。

次の格言詩はいずれも家畜にとっての塩の重要性を表現している。

le shet fut yip six go do	耕牛は主人にとって大切なもの
牛（文学語） 主人 頼りとする	であるので
nip mu ry jjo ry shep zha	彝族区に草があれば草を食べさ
彝族 土地 草 存在する 草 捜す 食べさせる	せ大事にし
huo mu ce jjo ce shep dop	漢族区に塩があれば塩をとらせ
漢族 土地 塩 存在する 塩 捜す 飲ませる	て大事にする

[NL2]

vo co zza mop sse	人はあたかも飯という母の子供
人 飯 母 子	みたいなものであり
zzax zze ne go wex	飯を食べてこそ体ができる
飯 食べる（助） 体 得る	
nyi yo ce mop sse	羊はあたかも塩という母の子供
羊 塩 母 子	みたいなものであり
ce dop ne not wep	塩を飲ませてこそ肉がつく
塩 飲ませる（助） 肉 得る	

[NL1]

vo co ggut nyi nbox	人は勤勉であるのが良い
人 勤勉だ 良い	
rrep mop ce nyi nbox	家畜は塩があるのが良い
家畜 塩 ある 良い	
vo co ggut nyi ne	人が勤勉であれば
人 勤勉だ （助）	
kep te ka ngew	いつもうまくいく
どんな時も（助） 正しい正しい	

rrep mop ce nyi ne　　家畜に塩があれば
家畜　塩 ある（助）
kep te ka nratw　　いつもよく肥えて美しい
どんな時も（助）美しい美しい

[HM:83]

塩を漢族の地区にあおがねばならなかったので，漢族との関係を悪化させることは不利なことであった。次のものはその点の認識を示している。

nip mu jix ap bbop　　彝族区との関係が悪くなると
彝族 土地 つながり（否定） 持つ
huo mu ax jji vot　　漢族区の戦いで死人の出たことを知らせるカラスの不吉な鳴き声が聞こえる
漢族 土地 カラス 鳴く
huo mu jix ap bbop　　漢族区との関係が悪くなると
漢族 土地 つながり（否定） 持つ
nip mu ce qy ggie　　彝族区では食事で塩がとれなくなる
彝族 土地 塩味のあるスープ 絶える

[NL2]

塩は秤で計って交換されるものであったので，商売では秤が大事である。そのことが次のものに反映されている。

nop ce jip ap syp mu vy lot li tap mu
あなたたち 秤 （否定） 知る（助） 商売 （助） （禁止） 行う
秤のこともわからないで商売をしないように
ce jip ap syp mu vy lot mu yix ne　　秤のこともわからないで商売を行うなら
秤 （否定） 知る（助） 商売 行う（助）
mup shy wa nyix lot tot bop ci li tap ggie
将来 手 上 元手 （助） （禁止） 絶える
将来元手まで失わないようにしなさい

[NS:177]

漢族区の布地に触れたものも頻繁に見える。布地はすばらしいものとして表現されている。高 [1978: 71] によれば，西昌や雷波といった彝族区に接近している都市では，もっぱら彝族に売るための粗い布が作られており，その布には染めていないものと染めたものとがあったが，彝族は染めたものを好んだという。また，若干の比較的開化した黒彝たちは，こうした粗い布には興味を失い，普通の漢族が用いる目の細かい布地を要求するようになっていたともいう。

huo mu lur kur jox	漢族区の城郭都市には
漢族 土地 城郭都市（助）	
biep but nrat su ddur	美しい綿布がある
綿布 美しい（助） 出る	

[NS:90]

huo mu vit nrat shep	漢族区で美しい服を捜せば
漢族 土地 服 美しい 捜す	
ggox ddur ngop hni nrat	それを着て晴れの場に出るうち
集まり 出る 我々 娘 美しい	の娘は美しい

[NL2]

shuo mu biep but gga nyip gga sho la su	
漢族 土地 綿布 路 （助） 遠い 来る（助）	
	漢族区から遠くはるばるやって来た綿布は
ggaw pu lu ggo ddix ax nge lap	
とりわけ 価値が高い（助） （否定） ～である（助）	
	とりわけ貴重ではないでしょうか

[SY:119]

漢族区で売られているものとしては，飴も彝族に喜ばれるものとして表現されている。

huo mu shax jji nga vy nex zha mu nyi sa
漢族 土地 飴 私 買う あなた 食べさせる（助）（助） 良い
私が漢族区から飴を買って来てあなたに食べさせるのも良い

ne jyr ne juo lax nyi gga gga sax xi nge
あなた なめる あなた なめる（助）（助） とりわけ 良い（助）（助）
あなたが飴を味わってくれたらとりわけ良い

[AZ:20]

mge fu a ssat mu su li
ソバの団子 従姉妹 作る（助）（助）
huo mu shax jji sup ma nyip
漢族 土地 飴 ～のようだ（量）（助）

あの人の作ってくれたソバの団子は
漢族区の飴のようにおいしい

[AZ:11]

huo mu shax jji ngep zze wax qy ox ddix ax nge lap
漢族 土地 飴 前 食べる 後 甘い（助）（助）（否定） ～である（助）
漢族区の飴は少しずつ甘く感じられてくるものではないでしょうか

[SY:61]

彝族の子供たちが飴を好んだということが，ある彝族の回想録 [吉克　1990: 19–20] に見えている。1920年前後のことである。

> 大人はしばしば街の市に出かけて，午後戻ってくるときには，もち米に麦芽を加えて煮詰めたものである麻糖と揚げた菓子をよく買って来て子供達に食べさせてくれたものだった。もしも大人が小銭がないためやほかの理由で買って来なかったときには「今日は飴売りの漢人が死んでしまっていたんだ」などと言って子供達をだまそうとしたものだった。

彝族は自らも酒を醸造していたが，漢族から買ったものも飲まれることが次のような表現に反映されている[5)]。

5）林 [1947: 44] にも，「焼酒が漢族区から購入されているが，彝族自身も雑穀を用いての酒の醸造の仕方を知っている」と述べられている。

ga chap ga ddie jie shat gga jjy nyi te go　市で街の道端に座っている時
市　街　道　下手 座る 時（助）
huo mu nry jy ne vy nga dox mux nyi sa
漢族 土地 酒　あなた 買う 私　飲ませる（助）（助）良い
漢族区の酒をあなたが買って来て私に飲ませてくれるのも良い
nga ndo nga yit lax nyi gga gga sax xi nge
私　飲む 私　酔う（助）（助）とりわけ 良い（助）（助）
私が飲んで酔えばとりわけ良い

[AZ:20]

huo mu mo la ne　漢族区を目にすると
漢族 土地 見る（助）（助）
nry jy co cyx mgu　酒のことを想う
酒　人 これを 想う

[K2:128]

mop bbo lur kur jox　雷波の城郭都市内では
（地名）　城郭都市（助）
nry shex nry ndo njuo　酒を求めて飲み回る
酒　捜す 酒　飲む 歩き回る

[K2:207]

彝族が漢族の酒をよく購入することは今世紀初頭涼山を訪れた Legendre [1909: 347] によっても記録されている。

> 彝族は生活に余裕があれば《焼酒》という中国人によって作られたものを飲みそれに溺れていた。これは本当に安物の酒であったが，その売上は残念なことに年を追って増大していた。彝族はいくらかの銭をもっていたとしても，毎日の生活をよくするものを買ったりするよりも，近くに中国人の村や居住地があれば《焼酒》を一杯やることに使ってしまうことであろう。

彝族の人々が漢族区で大量に安く醸造された酒に魅惑されていたことが以上の表現

や民族誌での報告から推測される。しかし，彝族が本来飲酒の習慣を重んじていることは漢族との対比で次のように表現されていることからも知られる。

nip　mu　nry jy　yy	彝族区では酒が大事
彝族　土地　酒　　大きい	
huo　mu　lat juo　yy	漢族区ではお茶が大事
漢族　土地　お茶　大きい	

[NL2]

鉄製品も漢族区と結び付いている。

le　jot　hex jjy　li	牛を煮るための鍋は
牛　煮る　鍋　　（助）	
huo mu lur ggut　rrur　bbo　vex	漢族区に移って行ったよ
漢族区（文学語）　存在する　行く（助）	

[K3:12]

彝族自身は原鉄を作り出す技術をもたず，鉄屑を漢族より得て加工することができるのみであり，鍋，針，農具などの鉄製品は通常漢族の職人などから購入された。鉄の起源を説いた口誦詩には次のような一節がある。

he ssyt　cyp　ssyt　bie	鉄の火花が一つ撥ねて
鉄の火花　一　火花　撥ねる	
huo mu la mgex　ndop	漢族区に落ちて
漢族区（文学語）　置かれる	
hex jjy　ap mop　jjip	大鍋になったよ
鍋　　大きい　～になる	

[NH:381]

鉄器としては，農具も漢族区から購入されていたことが表現されている。

zyt ddu she hxo huo mu jie shat (yip) shep yip sy
農具　漢族 土地 街　(囃し) 捜す (助)
農具を漢族区の街から求めてくれば
chex rrur chex po (yip) zzyr yip sy 米は大豊作である
米　囲い 米　囲い (囃し) 隙間がない (助)
[VH:192]

次の表現から，祭司に必要なものである紙や墨も漢族区から得ていたことが知られる。

shuo mu lur ho tep yy qu yu gguo 漢族の城郭都市で白い紙を得て
漢族 土地 城郭都市 紙　白い 取る 書く 書き
lep ggep op rro ma nza nuo yu jit 西昌の黒い墨をこする
(地名)　墨　黒い 取る こする
[馬 (学)・他 1987: 1977]

漢族区から入ってくる物と交換されて彝族区から出て行くものがあるが，次の表現には羊の皮のことが見えている。

hni nrat ip mu jjo 美しい娘が自分の土地にいても
娘 美しい 自分の 土地 居る
hnix yyr sat ddu ggep 娘の姿は姻戚の家で見られるようになる
娘　影 姻戚 家 遊ぶ
bbu nrat ip mu jjo 美しい羊が自分の土地にいても
羊 美しい 自分の 土地 居る
bbu njy huo mu ssi 羊の皮は漢族区で使われるようになる
羊 皮 漢族 土地 使う
[NL2]

老いた牛や馬などを漢族の街へもって行って，その肉を売るというのも固定的な表現としてある。

ax qy bbu mu nit	娘は嫁ぎ先とつながっており
娘　嫁ぎ先　かかわる	
le mop huo mu nit	老いた牛は漢族区とつながっている
牛 老いた 漢族 土地 かかわる	

[NL1]

hxo mox op rro ggo	老いた馬は西昌で命尽き
馬　老いた（地名）尽きる	
le mop jie shat ggo	老いた牛は街で命尽きる
牛 老いた 街　尽きる	

[K2:49]

hxo mox op rro ggo ap lap	老いた馬は西昌で命尽きるよ
馬　老いた（地名）尽きる（助）	
le mop op rro ggo ap lap	老いた牛は西昌で命尽きるよ
牛 老いた（地名）尽きる（助）	

[NH:98]

今世紀前半には，軍閥，官僚そして地主などのコントロールのもとで，大量にアヘンを購入する商人が涼山の彝族区を頻繁に訪れ始め，彝族も盛んにアヘンの栽培を行い漢族の商人に売り渡したが，アヘンの栽培は彝族の経済活動に多大の影響を与えた[『涼山彝族奴隷社会』編写組　1982: 61–65]。

次の歌詞は彝族が馬を好むこととの対比において，漢族がアヘンを好むということを述べている。

nuo dda mup gop zzy	彝族は裕福になると馬を買って乗る
彝族 裕福である 馬　乗る	
mup gop nuo gat qip	ところが思いもよらず落馬したりする
馬　彝族 予期に反する	
huo dda yiex yi ndo	漢族は裕福になるとアヘンを買って吸う
漢族 裕福である アヘン 飲む	

yiex yi　huo　gox kie　　ところがアヘンが体をボロボロ
アヘン　漢族　体を破壊する　　にする

[NL2]

胡 [1985: 301–303] によれば，19世紀の末ごろより，刀や矛などの伝統的な武器とともに清朝の軍隊から分捕った銃などを彝族が戦闘において使用し始めていることが知られる。そして，今世紀40年代になると新式の銃が完全に伝統的な武器にとってかわったが，銃を漢族区から積極的に購入する財源となったものとしては，アヘンの栽培による収入が与って大きいという。

口誦詩にも銃のことは頻繁に見える。戦闘力を格段に高める銃は紛争の絶えなかった涼山地区で盛んに求められたことを反映しているものとして理解される。

huo my luo ggut　zuo　　漢族区に捜し求める
漢族区（文学語）　捜し求める
lie shyt a vut　zuo　　銃を捜し求める
銃　　捜し求める

[NS: 16]

huo　mu　mox　ne　　漢族区を目にすると
漢族　土地　見る（助）
lie shyt　mgu　la　jox jjip　　銃のことを想うようだ
銃　　想う（助）　～のようだ

[NS: 168]

次の二つには漢族区の銃と彝族の伝統的な武器である矛とが対にして表現されている。

huo　mu　chot lur　ngop　sip　nyi　kuo　nzox
漢族　土地　銃弾　我々　取る（助）　勇敢だ（経験）
漢族区の銃弾を手にしても我々は勇敢であった

nip　mu　nji qu　ngop sip　nyi　qy　nzox
彝族 土地 矛 白い 我々 取る（助） 担ぐ（経験）
彝族区の白い矛を手にして我々は担いだこともあった
[K3:274]

cyx　ne　huo　mu　lie shyt sip　su　(ox yie)　mu gat　nge
これ（助） 漢族 土地 銃 取る（助） （囃子詞） （人名） ～である
それなら漢族区の銃を使うものはたいしたもの
nip　mu　nji mop yu　su　(ox yie)　mu gat　ddi
彝族 土地 長い矛 取る（助） （囃子詞） （人名） （助）
彝族区の長い矛を手にするのもたいしたもの
[VH:154]

2.4. 漢族と彝族の間の習慣の差異

彝族と漢族の文化，習慣の違いを表現した格言詩もいくつか存在する。序論 [1.2.] で述べたように，彝族と漢族では社会体制そのものが異なっているわけであるが，それ以外の様々な文化，習慣の違いも，彝族の人々にとって異質なものと感じられ，漢族に対する違和感を助長させる可能性をもつものである。こうした一つ一つの差異が全体として彝族区と漢族区という対立的構造を形成しているものと思われる。以下，両民族の間の差異に注目している格言詩のいくつかを示しておく。

彝族と漢族では良俗の基準が異なることは次のように表現されている。

nip　lyp　huo　lyp　jjy　ap　qo　彝族と漢族の良俗が異なるのは
彝族 良俗 漢族 良俗 互いに（否定） 伴う
ce qy　jji qy　jjy　ap　sup　塩と飴のうまさが違うようなもの
塩 うまい 飴 うまい 互いに（否定） 似る　のである
[NL2]

彝族と漢族の両民族の間では話している言語も異なる。次のものは彝語と漢語を対比させている。

nip　sse　nip hxop　syp mga　　ma　ap　jjo
彝族　男子　彝語　　知り尽くしている（量）（否定）存在する
彝語を知り尽くしている彝族はなく
huo　sse　huo hxop　syp mga　　ma　ap　jjo
漢族　男子　漢語　　知り尽くしている（量）（否定）存在する
漢語を知り尽くしている漢族もない
[NL2]

次は漢族の人間関係のあり方に触れたものである。

huo　mga　jjip yo　ly	漢族は蜂がぶんぶん飛び回るよ
漢族　通る　蜂　　うなる	うににぎやかに歩いているが
zzi　la　ddox　ap　ti	出会ってもあいさつをかわさな
出会う（助）言葉（否定）伝える	い
huo　zzur　jjip bbu　die	漢族の住居は蜂の巣が重なるよ
漢族　住む　蜂の巣　重なる	うにたくさんあるが
mgep　la　chox　ap　wep	泊まっても飯も食べさせてもら
泊まる（助）晩飯（否定）得る	えない

[NL2]

父系の血統に基づく強固な血縁関係を絆として，何代も前に共通の祖先から別れた遠い親戚どうしでも，あいさつしあって姓名を尋ね親戚であることがわかれば暖かくもてなし飯を食いはぐれることのない社会で生活している彝族の人々にとって，とにかく見知らぬ人と会えば，あいさつしあって血縁上のつながりの有無を確認するのは生活上自然なことである。このような認識をもっている彝族からすれば漢族の人間関係はあまりに冷淡に感じられるが故に，このような表現が生じたのであると考えられる。

次の三つの格言詩は漢族の地区では文字の使用が彝族区に比して浸透しているという認識を示している。彝族は独自の文字をもっているが，その使用は一部の者に限られており，ほとんどの彝族の人々は文字とは関係のない生活を送っていたことを反映しているものと思われる。

nuo mu ddop nrat li　　彝族区のすばらしい言葉は
彝族 土地 言葉 すばらしい（助）
pup mge ly ke zix　　祖先が子孫に食べさせてあげる
祖先 咀嚼する 子孫 ロ 入れる　　ようにロからロへと伝え
pat mge sse ke zix　　父が子に食べさせてあげるよう
父 咀嚼する 子 ロ 入れる　　にロからロへ伝える
huo mu bburxw li　　漢族区の文章は
漢族 土地 文章 （助）
pup bbur ly bbyp lox　　祖先が書いて子孫に与え
祖先 書く 子孫 与える（助）
pat bbur sse bbyp lox　　父が書いて子に与える
父 書く 子 与える（助）

[NL2]

nuo mu li ddop jiet　　彝族区は口頭での約束
彝族 土地（助） 口頭の約束
huo mu li tep yy　　漢族区は文書での約束
漢族 土地（助） 文書

[NL2]

nuo mu ddop jiet yu　　彝族区では口頭で約束をする
彝族 土地 口頭で約束をする
shuo mu tep yy bbur　　漢族区では文書で取り決める
漢族 土地 文書 書く

[NL2]

次のものは漢族のひげを伸ばすという習慣をとらえたのもので，彝族がひげを抜き去る習慣と対照的に述べられている。彝族がひげを抜き去ってしまって伸ばさないことは，今世紀初頭に涼山を訪れた鳥居 [1980: 233] の記録に見える。鳥居は「男子は鬚をことごとく抜き去ってしまう。されば一見鬚が無いもののように見える」と記している[6]。

6） 林 [1947: 41] には「彝族と漢族は体格の上からは区別しがたいが，『天菩薩』がある者は彝↗

hxie mgat qox ne miep zyt hxo　　漢族といっしょにいればひげを
漢族　伴う（助）ひげ　蓄える　　蓄え
no su qox ne miep zyt zhyr　　彝族といっしょにいればひげを
彝族　伴う（助）ひげ　抜く　　抜く

[NL2]

hxie mgat nge ddix miep zyt ap zzur　漢族というのにひげをはやさず
漢族　～である（助）ひげ　（否定）存在する
nuo su nge ddix nzup tip ap ndit
彝族　～である（助）彝族独特のまげ（否定）帯びる
彝族というのにまげをのばしていない

[NL2]

次の歌詞は土司と漢族の役人のことを並べて述べているが，特に漢族の土葬の習慣と彝族の火葬の習慣が対照的に述べられている。

huo mu gix sse sy　　漢族の役人が亡くなれば
漢族 土地 役人　死ぬ
zyp gup jie zhyr tie　　絹に包まれ
絹　包む
mge bbu cyp ji wep　　棺桶を一つ作る
棺桶　一（量）得る
nip mu nzy sse sy　　彝族区の土司が亡くなれば
彝族 土地 土司 男子 死ぬ
shy vut shy nuo tie　　藍や黒のマントに包まれ
藍色のマント 黒のマント 包む
syr pyt cyp gat wep　　薪一山を得る
薪　一（量）得る

[NH:318]

↘ 族であるとわかるし，ひげのある者は必ず漢族である。しかし奴隷にされた漢族も強制されて『天菩薩』を伸ばしている」と述べている。なお，『天菩薩』とは彝族の男子が伸ばす独特のまげの漢語名である。

彝族と漢族の間では主食となる穀物の種類も異なり，このことも表現されている。彝族の主食となる穀物はソバであり，漢族は米である。

nuo su	po cyp	mga vat	w	彝族は手をつかねている時ソバ
彝族	手をつかねる	ソバの薄焼き団子	焼く	の薄焼き団子を焼き
hxie mgat	po cyp	cha jot	w	漢族は手をつかねている時おか
漢族	手をつかねる	米のおかゆ	煮る	ゆを煮る

[NL2]

彝族と漢族の間の衛生観念の違いも表現されている。

nuo	vit	ryp	zze	ggie	彝族の服は汚れで痛んでだめに
彝族	服	汚れ	蝕む	絶える	なり
shuo	vit	yyx cy	ggo		漢族の服は何度も洗った結果ぼ
漢族	服	水で洗う	尽きる		ろぼろになる

[NL2]

以上，彝族と漢族の違いということに注目している表現を挙げて来たが，次の例のように，人間としての根本的な感情に関しては共通しているのだという認識を示すものもある。

nip	sse	huo	sse	cha	彝族と漢族は違うが
彝族	男子	漢族	男子	違いがある	
ax mo	mgu jjup	zyt			母親を想う気持ちは同じである
母	想う気持ち	一致する			

[NL2]

3. 考　　察

3.1. イメージ形成の時期

以上，口誦詩に表現されている漢族または漢族区の様々なイメージを記述してきた

が，まず，口誦詩に表現されている事象から推測できることは，口誦詩に定型的な表現として凝結している彝族の人々の漢族に関するイメージは中国の清朝から民国期にかけての時期に存在していたものであったろうということである。清朝の官吏の制帽の飾り，銃器そしてアヘン等が表現されていること，そしてこの時期に涼山に至った者によって報告されている事象との一致などがその目安となる。もちろん，それ以前の時期，すなわち彝族と漢族が初めて接触した時から清朝の時まで底流として存続しているイメージ，特に王朝からの統制が強まったと思われる明朝以来のイメージが含まれていることもありうるし，1950年代に中国共産党の指導の下に行われた民主改革以後のイメージが含まれている可能性もあるが，そのことを積極的に示す証拠を欠いている。それゆえ，口誦詩の表現より帰納される漢族のイメージは，清朝より民国期に至る期間のものを核とする過去の漢族のイメージとして理解するのが最も妥当であろう。

3.2.　主要な他民族としての漢族

[2.1.] で示した空間認識にかかわる表現から知られるように，漢族は彝族自身以外の民族としては，彝族のほとんどの関心を占める異民族集団として認識されているものなのであり，そうした漢族を異質な民族集団として実感させる役割を果たしている個々の要素としては，[2.4.] で示したような，風俗習慣の様々な面での差異が指摘できる。

本論で記述した口誦詩の表現から導き出される漢族の主なイメージ及びそのイメージとかかわる表現をまとめて示せばおおよそ表 1 のようになる。

表 1　漢族の主なイメージ

権力のイメージ	物資供給者のイメージ
漢族の役人	塩
制帽の珠飾り	布
兵　士	酒
軍　旗	鍋
牢　獄	飴
	銃
	天秤棒

3.3.　物資供給者としての漢族

[2.3.] での記述，そして [3.2.] で示した表から知られるように，漢族は，鉄器具，塩，布地などの生活必需品や酒，銃の供給者としてイメージされており，漢族区は商工業の発達した地域としてイメージされている。このことから，彝族にとって漢族とは何よりもまずこれら物質文化の方面における供給者としてプラスの価値観をもつ存在なのであるということが推測される。つまり，彝族にとって，漢族は異質な民族集団であり，基本的には敵対関係にある存在であったが，しかしながら，そのような漢族とでも，役人や商人などとの関係を維持することによって，そこから利益や自らにとって必要な物資の獲得を図らねばならない存在として彝族に認識されていたであろうということである。また，ひとたび漢族側の勢力が弱まると，漢族区で物資の略奪を行った動機の一端は，漢族が所有している物資の魅力自体によるものであったかもしれないことも推測される。

3.4.　権力としての漢族

もう一つの顕著なイメージとして指摘できるのは，権力としての漢族のイメージである。権力としての漢族のイメージは，[2.2.] での記述，[3.2.] の表において示したような大軍を率いる漢族の役人や牢獄によって象徴的に示されていると解釈することができる。涼山の彝族は，涼山の険しい自然環境という条件も与って，血統的優位性に基づく価値観を保ち続け，それに基づく社会構造を維持し続けることが可能であったが，そのような彝族区の周縁部において，異なる価値観，社会構造に基づいて行動し，経済力を背景として彝族区の中心部へと開拓を推し進めて勢力を伸ばして来る漢族は，圧倒的な軍事力をもって権力を行使し自分たちを抑圧する存在として認識されていたであろうことが，このようなイメージから推測できる。しかし，このような漢族は，友好的な関係を維持して，そこから利益を得ながら共存するべき相手としてのイメージも兼ねもっていることが，[2.2.] で示した役人への贈与についての表現などから推測される。また，軍事力に支えられて成立している権力としての漢族像は，必然的なこととして，権力をもっている漢族，すなわち役人だけに彝族の関心を向かわせるものと解釈すれば，どうして口誦詩に表現されている漢族が役人に集中しているのかということも理解できる。このように権力をその存在基盤として認識されている漢族は，いったん経済的疲弊などからその軍事力が弱体化し，また彝族の奴隷主たちに利益をもたらさないようになり，彝族の間における役人の権威も失墜すれば，それ

までの抑圧に対する反動として彝族側による漢族への攻撃を引き起こし得たであろうことは容易に推測できることである。事実，涼山の彝族は漢族の側の軍事力が手薄になれば，漢族居住区に攻勢に出て，軍事的手段により奴隷及び物資の獲得や土地の占拠を図ったのである。

3.5. 都市の役割

口誦詩の表現から帰納される彝族にとっての漢族のイメージは，特に政治的，経済的事象に関して顕著であるが，しばしば漢族の居住区である城郭都市や街に強く結び付いて表されていることも指摘しておく必要がある。このことは，彝族と漢族との交流において漢族の都市や街が中心的な役割を果たしていたことの反映として解釈できよう。

4. 結　　語

本稿での考察により明らかにした主要な点をまとめておくと，清朝から民国期に至る時期を中心として，涼山地区の彝族が漢族という異民族に対して抱いていた主なイメージは二つあり，その二つのイメージから推測可能なこととしては，まず，漢族はその物質的な豊かさのゆえに魅力のある存在であったであろうということ，第二に漢族はその経済力，軍事力を背景とする強大な権力をもって彝族を抑圧する存在として認識されていたであろうということである。そして，これらのイメージは都市という空間への集中傾向を示しているのである。

以上，本稿での記述，考察を通して，彝族が伝統的社会において抱いていたであろう漢族像を明らかにして来たが，本稿で試みたような方法によって得られた漢族像が，果たして，実際の彝族の認識とどれほどの整合性を保っているのかという点を，漢籍の利用や聞き取りによって検証して行き，このような研究方法の有効性を確認することが今後の課題として残されているといえよう。

謝　　辞

本稿をまとめるにあたっては，江口一久先生（国立民族学博物館教授）より始終懇切なコメントをいただきました。また，本『国立民族学博物館研究報告』編集委員の方々より有益な意見を賜りました。ここに謹んで謝意を表します。

文　　献

この文献表では彝文出版物の書名・著者名をその漢語表記によって示してある。

阿魯斯基・盧　占雄
　1987 『彝族克智』（彝文）四川民族出版社。
『当代四川』叢書編集部（編）
　1992 『当代涼山』巴蜀書社。
馮　元蔚
　1985 『勒俄特依』（彝文）四川民族出版社。
嘎哈史者・阿都木支・馬　双発・吉爾田日
　1988 『彝族克智（第二集）』（彝文）四川民族出版社。
嘎哈石者・吉爾体日
　1990 『彝族克智（第三集）』（彝文）四川民族出版社。
高　　倫
　1978 『大涼山夷区見聞録』新文豊出版公司。
何　耀華
　1988 『中国西南歴史民族学論集』雲南民族出版社。
胡　慶鈞
　1985 『涼山彝族奴隷制形態』中国社会科学出版社。
吉克　爾達　則夥（口述）・吉克　則夥　史夥（記録）・劉　堯漢（整理）
　1990 『我在神鬼之間――一個彝族祭司的自述』雲南民族出版社。
LEGENDRE, A. F.
　1909 Far West Chinois. Races aborigènes. —Les Lolos.— Étude ethnologique et anthropologique. *T'oung Pao* 10: 340–444, 602–665.
『涼山彝族奴隷社会』編写組
　1982 『涼山彝族奴隷社会』人民出版社。
『涼山彝族自治州概況』編写組
　1985 『涼山彝族自治州概況』四川民族出版社。
涼山州編訳局（沈　伍己・他）
　1983 『我的幺表妹』（彝文）四川民族出版社。
　1990a『涼山彝族伝統民歌』（彝文）四川民族出版社。
　1990b『彝族爾比釈義（1）』（彝文）四川民族出版社。
　1991 『所地民歌三百首』（彝文）四川民族出版社。
　1993 『彝族爾比釈義（2）』（彝文）四川民族出版社。
林　耀華
　1947 『涼山夷家』商務印書館。
羅　家修
　1985 『瑪牧特衣』（彝文）四川民族出版社。
馬　学良・他
　1987 『増訂爨文叢刻（下巻）』四川民族出版社。
馬　志強
　1988 『彝族婦女歌謡』（彝文）四川民族出版社。
四川省編写組
　1987 『四川省涼山彝族社会調査資料選輯』四川省社会科学院出版社。
鳥居龍蔵
　1980 『中国の少数民族地帯をゆく』朝日新聞社。
王　昌富
　1994 『涼山彝族礼俗』四川民族出版社。
越西県語委王清順等（搜集整理）
　1987 『越西彝族民間歌謡』（彝文）四川民族出版社。

曽　昭掄
　1982 『中国大涼山イ族区横断記』八巻佳子訳　築地書館。
中国西南民族研究学会（編）
　1987 『西南民族研究（彝族研究専輯）』四川民族出版社。
中央民族学院彝文文献編訳室（編）
　1993 『彝族文献研究』中央民族学院出版社。
周　自強
　1983 『涼山彝族奴隷制研究』人民出版社。